

合同資源みらい賞

かんばやし あきふみ
上林 暁史

お父さんへ

就職先も決まらず、心身ともに荒んでいた僕に「今日は美味しい物でも食べる」と携帯越しに言って、お金を振り込んでくれましたね。ろくにお礼も言わないでごめんなさい。

あのとき、実は僕は泣いていて、口が動かなかったのです。

大の男が泣くなどと怒るかもしれませんが、どうしようもなかったのです。

でも、おかげで次の電車が来る頃には顔を上げることができました。

お父さんのような大人になりたい。就職よりずっと大きな目標ができた瞬間です。

今、僕は30歳になりました。仕事はキツイですが、なんとかかやれています。

給料日の食事会を、お父さんは「無駄使いするな」と嫌がりますが、

やめるつもりはありません。

人は笑うと健康になるそうです。病は気からという言葉もあります。

だから、せめて食事中だけでも、僕はお父さんに笑っていてほしいのです。

病気に負けないで、いつまでも元気でいてください。

あのとき、優しさを教えてくれた家族に、少しでも恩返しをさせてください。

多分これが、僕の最後の我儘です。

お父さんの優しさに免じて、どうか聞いてください。

(茨城県 / 30歳 / 男性 / 会社員)

送付した文章に全て込みました。